

## 15、マジックテープを利用した車椅子の安全ベルトについて

国立療養所宇多野病院

広川 由紀子 加藤 悦子  
久乗 コウ

前回発表した、三種類の安全ベルトの中で一般用安全ベルトが、比度、業者の協力により、実用化することが出来た。又、実用化を検討して行く過程において、当病棟の車椅子は耐用年数に達したものが多く、調達しなければならない時期になっていたので、家族や業者の協力を得、新調することにした。しかし、頭初からの課題であった、坐位保持が不安定な患児や、故意に危険な動作を取り易い、先天性PMD患児の安全ベルトについては、いろいろ試作を行った結果、サロペット式安全ベルトが適していたので紹介する。

### 〔業者によって作られた安全ベルトの紹介〕

業者によって作られた安全ベルトは、車椅子と同じ材質で、色も、赤、茶、紺地がありカラフルで、安全ベルトの装着操作も簡単である。車椅子からの取りはずしも容易なためマジックテープの持久力や汚れ等に対し管理がやりやすくなった。ベルトは㊦、㊧、㊨の3つに大別されている。

1. ㊦の安全ベルトは、主に低学年の体重の少ない患児が対象、マジックテープは巾2.5cm 長さ10cmの2本を用い、接着面が少ない割に危険性が少ない。
2. ㊧の安全ベルトは、中学生程度の体重、23kg～30kg迄の患児に多く使われている。マジックテープは、巾2.5cm 長さ12cmの2本を用いているが、これは患児の体格に比較して、上体の重みをささえきれない場合があった。又安全ベルトの取り付け位置が低いため、前屈位になりやすく、補強用マジックテープを付けたり、帯状補助ベルトを使用している。
3. ㊨の安全ベルトは㊦ ㊧の使用により、生じた問題点を、業者と共に検討し、改良を加えたものである。マジックテープは、巾5cm、長さ14.5cmで、比較的安全性の高いものとなった。

### 問題点と対策

(問題点)

- ① 安全ベルトの装着位置が低いため、前屈位になり易い。
- ② マジックテープの接着面が少い。
- ③ ベルトの材質が硬いため、大腿部との摩擦痛を訴えることがある。

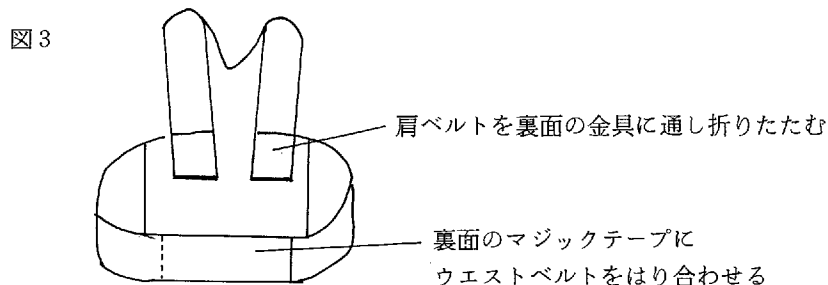
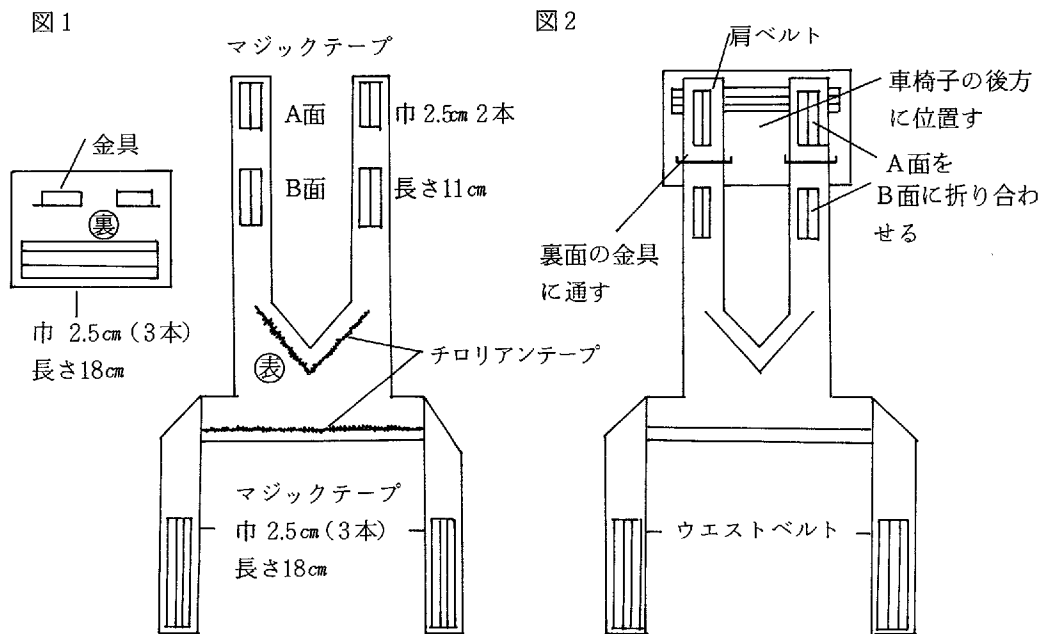
〔対 策〕

- ① 帯状ベルトを使用し、補助ベルトとした。

- ② 補強用マジックテープを付けた。
- ③ 大腿部とベルトの間にスポンジを挿入した。

〔サロペット式安全ベルト〕

サロペット式安全ベルトは、坐位保持が不安定な患児三名を選び、個人の変形、習癖を考慮し安全性、機能性、操作性をもとに胸当式安全ベルトに改良を加えたものである。材質はデニム地を用い、色、デザインを吟味し試作した。



〔結果〕

- ① 部分的な内臓の圧迫、上体の前屈、側弯等危険な体位が緩和された。

② 肩ベルトが付き、体位により長さを調節出来るので、食事や遊び等、生活活動の姿勢が比較的良くなった。

③ 介助者の操作も容易である。

一般用安全ベルトの実用化に合わせ、病棟の大半の車椅子が新調された。患児の個人に合った車椅子は、安全ベルトの装着により、一層の安全性を高めた。又、軽くて美しいため患児の行動範囲を広めると共に、大きい安心感を与える結果となった。

## 16、移動式足踏台の作成及び工夫

国立療養所東埼玉病院

|         |           |
|---------|-----------|
| 成 富 明 子 | 古 橋 祐 子   |
| 中 村 文 美 | 佐 藤 昌 子   |
| 沖 村 悦 子 | 滝     あけみ |

### 〔はじめに〕

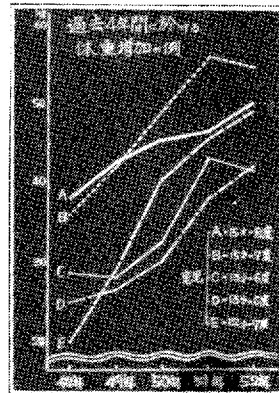
PMD児は、初期を除いてほとんど車椅子上の生活を余儀なくされているが私達はそれに伴い車椅子上の患児の援助を数多く行う。しかし、介助者の体型及び援助方法により、腰痛その他の障害が起こる可能性もあるため少しでもこれらを防ぐために、移動式足踏台を作成し検討してみたので報告する。

表1は、患児の体重増加の状況5例であるが、E患児をみると4年間で約28kgの増加がみられる。体幹に最も近い位置で患児を持ち上げる事は言うまでもないが、ある一定の高さ以上持ち上げる事は強度の労力を必要とするため介助者の腰椎に必要な以上の負担がかかる。これらを考慮し種々の検討を行ない大きさの異なる二種の足踏台を作成した。低い方の高さが17cm、高い方が25cmである。

#### (1) 調査方法及び結果

介助者の身長に異なり 160 cm以上をA、155～159 cm

表1



↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

前回発表した、三種類の安全ベルトの中で一般用安全ベルトが、比度、業者の協力により、実用化することが出来た。又、実用化を検討して行く過程において、当病棟の車椅子は耐用年数に達したものが多く、調達しなければならない時期になっていたので、家族や業者の協力を得、新調することにした。しかし、頭初からの課題であった、坐位保持が不安定な患児や、故意に危険な動作を取り易い、先天性 PMD 患児の安全ベルトについては、いろいろ試作を行った結果、サロペット式安全ベルトが適していたので紹介する。